

## 「計画的偶発性理論」

スタンフォード大学のジョン・D・クランボルト教授らが提案したキャリア論に関する考え方。

白川泰之先生が「なかまづくり」のヒントとされている理論

### 「従来の」合理的な解釈

従来の合理的な考え方では、キャリアプランの立て方とは、将来の目標を決めて、計画を立て、それに向かってキャリアを積み重ねていくというもの

仮に

昭和型

と呼ぶことにします

### でも現実をよく見ると

ビジネスに成功した人のキャリアを調査してみたら、そのターニングポイントのほとんどが、本人の予想していなかった偶然のできごとによるものだった

### 計画的偶発性理論

だったら  
そうした偶然のきっかけが発生しやすくしたらいいじゃない？

- ① 好奇心を持つ
- ② 持続的にとりくもう
- ③ 楽観性を持つ
- ④ チャレンジしよう
- ⑤ 柔軟性を持つ

こちらは

令和型

と呼ぶことにします



# 計画書より、まず一步：「とりあえず」の精神

「居住支援はなかまづくりらしい」

「居住支援では日常が大切らしい」

→ 理屈では納得できなくても、先達の実践知がそこにある。

## 「とりあえず」



### Stop

いきなり事業計画、KPI、PDCA、EBPMを考えるのは、いったん脇に置く。

### Start

まず「とりあえず」でいい。「とりあえず」誰かに会ってみる。

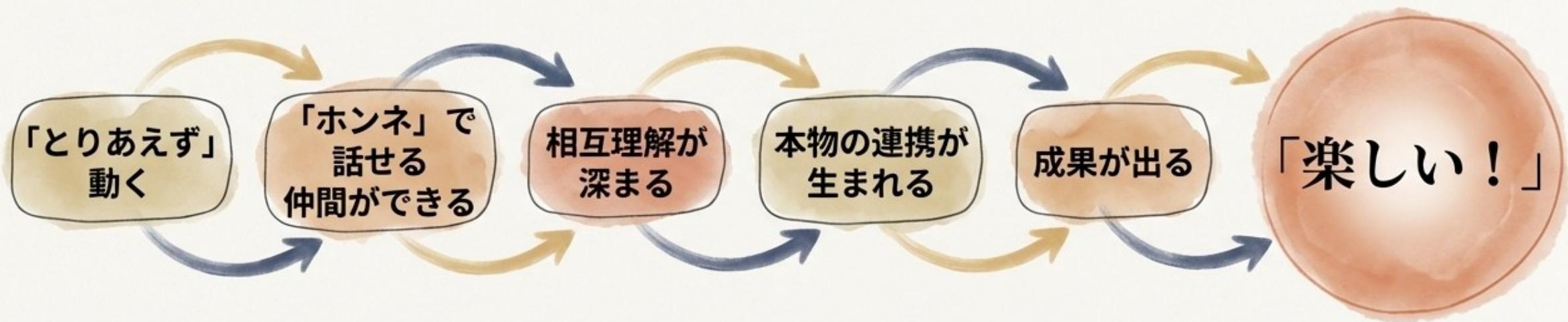
「とりあえず」少人数で話し合ってみる。

「とりあえず」現場を見てみる。

**行動が実践知を生み、それが深い理解につながる。**

# 究極の行動様式：それは、楽しむこと

「いろいろ申しましたが、究極重要なことは、楽しいということです。  
居住支援をやっているあなたが楽しいこと、  
また、参加している方々にとっても楽しいものであること、です。」



この「楽しさ」の土台には、真摯さ・誠実さ・純粹さがある。

- ・現実のニーズに対して真摯に
- ・市民に対して誠実に
- ・公務に対してピュアに

→ この思いが信頼関係を築き、本物の「楽しさ」を生む。